

2003.4. 1

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 30
(NPO法人近畿水の塾ホームページ)

////////////////////////////////////
川の流れるように・・・
////////////////////////////////////

【河川塾NEWS】

桜の開花状況を毎日耳にする今日このごろ。花の見頃は近畿では今週末のようです。春4月は新入社員や新入生、職場での異動など、新しい人との出会いや新しい事を始めるにあたってワクワクしてくる季節です。

皆さんの周りではいかがだったでしょうか？

NPO法人近畿水の塾は、初めての“桜”の季節を迎えています。
近畿水の塾も新しい出会いに、新しいできごとにドキドキ・ワクワク・・・



川の流れるように・・・

一粒、一粒の水雫が集まって川は始まり、次第にその幅を広げ、成長していきます・・・
ただいま近畿水の塾・澤井河川塾は新規会員、新企画を大々募集中です！！



【前回河川塾の内容】

「第27回澤井河川塾」

日時：3月12日(水) 19:00～

場所：センター（いつもの6F会議室）

出席：澤井、福廣、伊藤、古川、西河、下村、小川、富田、佐藤拓&侑 計10名

内容： 話題提供

「九州 松浦川ワークショップ」 - 福廣さん

アザメの瀬地区自然再生事業

～ 松浦川 ～

3年間ぐらい続いている九州川のワークショップで去年の9月の発表の時に良かったということで今回取り上げられた。

アザメとは・・・正式名称はアジメという植物。あやめに似ている。

現場・・・・・・・・佐賀県東松浦郡相知町佐里地先。

昔は遊水地として湿地だった（現在陸化している）
約6ha

取り組み時期・・・2001年11月より

方向性・・・・・・・・川とつながった湿地的環境を再生することで、松浦川に生息する魚類や植物の再生を図る。（場の再生ではなく、機能の再生）

対象とする生物は松浦川でよく見られた普通の生物を対象とする。
（貴重種ではなく普通種）

昔の暮らしは自然と共生していたので、暮らしという視点から共生を考える。（自然と共生する暮らしの再生）

子どもたちがいつでも生き物と触れ合うことが出来る場を再生する。（自然との共生の再生）

風景の美しさに十分配慮する。（自然風景の再生）

洪水の氾濫を認め、下流への洪水流量抑制も念頭に置く。（治水にも配慮）

やり直しのきく、順応的整備方式をとる。（順応的手法）

心のリザーブ（緩やかな目標設定）

リザーブとは：「こうでないといけない」「この範囲内で」

数値指標では長期計画に不向き

自然に寄り添う モニタリングの必要性（住民モニタリング含む）

なるべく地域の素材を使い、草（セイタカアワダチソウなど）なども、持ち出さず堆肥化し再利用する。（循環）

徹底した市民参加型の計画手法をとる。（参加型事業）

学識者の意見は絶対性があるので議論の場では一歩引いてもらおう

生態学とは関係性の世界であり、種の少ないドイツだからこそ生まれた。日本では生物層が多いため生態学は根付きにくい。どちらかというとも博物学に近いものが要求される。保育学という点では百姓はすごい。知識はないが、博識である。

ちょっと小話・・・タニシ：田舎の蛸（蛸は高級品だった）

計画の骨格・・・1.計画区域の大半は地盤を下げ、冠水頻度を上げ湿地を再生。

（土地利用の地面はえてしてレベルが上がっている。）

2.湿地への水の供給は、下流の堤防を一部切かき、常時河川流入できるようにすると同時に、松浦川からの伏流水、溜池も利用。

3.計画区域の一部は昔見られた農地を再現。

4.川沿いは少し高くして水防備林を兼ねた河畔林を整備。

5.植生の復元には町内のかつて湿植物が見られたであろう土地に眠っている種を利用。（シードバンクの利用）

6.子供たちが近寄り魚などを取ったり、人が歩いたり出来る観察道の一部設置。

自然の再生 人の意欲再生

自然に建設・管理はない（概念の反転） 未完で続く：サグラダファミリア型

自然再生推進法・・・市民主導（多様な地域）

壊した自然の復元（誰が？）

堤防の一部を伏流化

フローに時間概念を取り入れるとややこしくなる

.....

言葉

自然との共生について

人と自然は対等の関係なのか？（No）

自然・・・親

人間・・・子

こういう関係（親がいて子がいる）

環境の共生について

環境とはいつもあるものを指す（自身の影など）

共生もへったくれもない。

母なる自然

自らがコントロールしきれないものそれが自然だ。

自然の役割

完全には知りえない・予測できないそのような動きの分からないものに対し役割を考えるのはおかしい。

自然の管理

それほど人は自然の動きを認識していないのではないのか。

まとめ

ものを語る時は、その主人公が誰であるかを考え明確にしてから話そう。そうでないと、主体のない物議は主体がすりかわり收拾がつかない。

.....

発注者について

最終目的しか書かない 仮設での配慮に必要 設計変更が増え業者泣かせだが後に改良工事が要らない 真には近道

後の維持は市民任せの方がよい（設計から参加してもらうとなお良い）

設計に関して

勾配がもともとあるところは、基準どりに造れない 自然をつぶす体の悪い人、年寄りにも自然を感じる権利がある

自然（人の寄らない所）よりもまずは街中に目を向けては？

会計検査がなんと言うか（河川整備で造ったものを掘り返す等）

自然再生法を用いる

世の中の見識の変化を促す（造ったものではなく計画概念に評価をいれる）

市民の市民的意識の締め付けられ

オンブズマンの真意は？

目標はどこにあるのか（たたく事？改善後？）

総合的よりは分析的

誰もが分かることが、ほんとに正しいのか？

客観的：主人公の欠如している場合が多い

今後の近畿水の塾・澤井河川塾で考えてゆくべきもの

「特定都市河川浸水被害対策法案」

必要性

総合治水・・・今のままでは不十分
河川は河川課と単独では無理が出る
調整池の取り払いの増加

水はけの悪い土地

こうせつ升：補助でつけられる（条例化）

補助対象の公化

雨水ピーク流量は削れない

調整池がいる

雨水貯留施設を作ると池の容量を小さく出来る

下水道の補助の中で条例の確実化

管理の問題

傾斜地

地すべりの危機

技術レベルの充実化

河川改修でなくす計画の暫定的な調整池

よく埋められる

都道府県管理に持っていきたい。

河川塾内の言葉

創らないのが総合治水（地道復活？）

河川を広げるのか？水溜りをあたりまえにするのか？

信号をつけて雨の日だけ進入禁止にする。（危険地域）

水が流れた後に空気も入るから土は生きている、アスファルトをはがした時木を植えても駄目。

都市区と河川区だけで出来るものをしている。

従来（現在）下流から水を取るなど、変な形の水源確保がなされている。

自然をどれだけ人工に扱えるか？

ビオトープの防水シートはどうなのか？然の定義（材料でみるか、出現の工程で見るか）

[小川&富田]

【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

第28回「澤井河川塾」

日時：4月16日(水) 19:00～21:00
・・・毎月、第3水曜日の開催です！！

集合：センター（いつもの6F会議室）

内容：河川関連法についての自主学习
「自然再生法ってどんななん？」
レポート
「淀川 平成ワンドと木工沈床工」

参加費：1,000円（近畿水の塾 会員は500円）

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp）まで 4/15(火)締切

「澤井河川塾」番外編を2本続けてご案内します。

「澤井河川塾」番外編 「淀川 平成ワンドと木工沈床」見学会

日時：4月3日(木) 13:00～17:00

集合：京阪「樟葉駅」改札に13:00

内容：13:00～ 淀川 樟葉の平成ワンドを見学
電車を乗り継いで(北浜～柴島)、長柄橋へ(徒歩5分)
15:00～17:00 長柄橋にて木工沈床工事の見学(大堰上流)

ご案内：ワンド・・・大阪工業大学綾先生

柴島地区耐震対策その他工事・・・国土交通省淀川工事事務所毛馬出張所平尾氏

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp）まで 4/1(火)締切

「澤井河川塾」番外編 「柳川堀割物語」ミニ上映会

日時：4月23日(水) 18:30~21:30
・・・交流会 21:30~

会場：センター（いつもの6F会議室）

参加費：1,000円（近畿水の塾 会員は500円）

定員：20名（先着申込受付順）

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp）まで 4/22(火)締切

【川の情報ボックス】

イベント報告

第3回 世界水フォーラム 関連イベント
「大阪水プラザ」&
「水に関するワークショップin大阪」

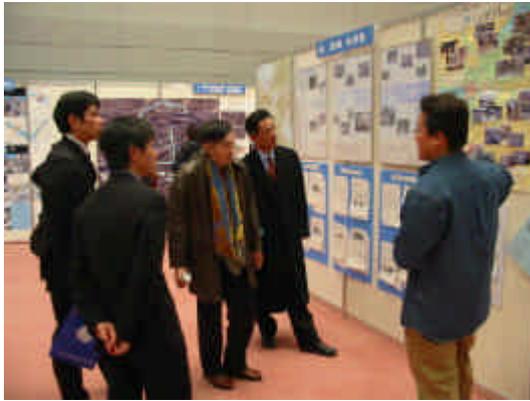


主旨：「第3回世界水フォーラム」を契機に、水問題に関心を持ち、活動されている住民やボランティア団体、NPO・NGOの皆さんに集まっていただき、日ごろの活動成果の発表や意見交換を通じて、今後の水問題の解決に役立てるため開催

会期：「大阪水プラザ」平成15年3月18日(火)・19日(水)
「水に関するワークショップin大阪」3月20日(木)~22日(土)
「大阪水プラザ」の公開対象はフォーラム分科会参加者のみ(有料)

場所：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)3Fイベントホール、他10F会議室

主催：第3回世界水フォーラム大阪委員会事務局



近畿水の塾も「水に関するワークショップ in 大阪」にパネル展示部門で参加してきました。皆さん、近畿水の塾パネルはご覧頂けましたでしょうか？会期も短めでしたのでご都合悪く会場へ足を運べなかった方には、せめて写真で雰囲気をご紹介させて頂きたいと思います。まだまだ先のイベントとのんびりしていたら、やはりこういうのはあつという間にくるものですね……。よくわかりました。

今回のイベントへはパネル展示なので、わかりやすい・見やすい・これからも使えると3拍子揃った格好良いパネル作成をと、作成してもらいました。納入当日、遅めの搬入だったので既に殆ど展示済み状態の中、せっせと取り掛かったわけですが、やはりなんとなく自分達のが42部あるパネルの中で一番良く見えるから不思議ですね。・・・手前味噌ですみません。

納品日も含め3回会場に足を運びましたが印象に残っているのは、殆どがパネル展示の中、葦で作成された立体模型作品を天井から展示されているコーナーでした。あまりの見事な出来と大きさにてっきり主催者側の展示物かと思い込んでいました。私が訪れた時間帯には、そう混雑もなくゆっくり全体を見学する事が出来ました。



個人的にあと面白いなあと思ったのは、ドリンクコーナーに「大阪府営水道の水」がペットボトルに入って並んでいたことです。つまり水道水ですね。飲んだ時は何故だかドキドキしました。・・・味は普通でした。今時スーパーは勿論コンビニでも飲料水が売られていますが、我が家では浄水器も使わず、水道水をそのまま利用していますので、家の水を飲んでいるような気がした、というのが感想になります。

中央奥に、天井からの展示物が写っています

このペットボトルのラベルに大阪城や浄瑠璃人形や法善寺横町など大阪を連想させる写真がいっぱい載っていて面白いので記念に持って帰って来ました。そう言えば、「世界の共有財産である水を守る」をテーマにした分科会では、アフリカやインドの発表者から「ペットボトルは捨てないで洗ってまた使ってほしい。大切な資源を無駄にしないで」との意見がありました。

確かに。リサイクルとして出す前に、まだまだ水筒の役目を果たしてくれますよね。この大阪府営水道の水が入っていた珍しいラベルのペットボトルが暫くは我が家の水筒になりそうです。



「大阪府営水道の水」がペットボトルに！

[侑]

【事務局より】

河川塾世話人紹介の第6回は、前回に引き続き事務局の自己紹介をさせていただきます。

みなさん、こんにちはー！！ 近畿水の塾 事務局長の佐藤 拓二です。

普段は「公園」関係の仕事をしています。

しかし、ひょんなことから飛び込んだこの世界・・・

あれよあれよという間に、澤井河川塾も2年半を過ぎました！

澤井河川塾は「川に学ぶ」シンポジウムから生まれた、「近畿水の塾」を母体とした市民的・非専門家的な勉強会ですが、この「近畿水の塾」は様々な人々がより多くの見識を深める場である」とは、よく言ったものです。

初代『追いまわし役』の私は、未だ川に関するビジョンを持ってないままに何とか皆さんの後をついて行っている状態ですが、この2年半でこの世界で学んだことを、ずいぶん『仕事』に生かすことができました。

今度は、この『仕事』を水の塾・河川塾にフィードバックする時期だと思っています。

楽しく、長～く続けたいですね!!

次回の河川塾世話人紹介最終回は、理事長 福廣さんです。